

## イニシエーション・スピーチ 中野 広行会員

私の生い立ちと精神に影響を与えた薩摩の気風について、息子の中学時代の自由研究で、手ほどきして書にまとめたものがありますので、これを元に紹介させていただきます。

大河ドラマ「西郷どん」が放送された年、我が家は大いに盛り上がっていました。母校の近くにある加治木の龍門司坂、「西郷どん」のロケにも使われた場所です。西南戦争の時、私の郷里の帖佐郷からは一族郎党を含む四百名程が西郷軍に従軍、別府晋介率いる大隊に配置され、薩軍の先鋒としてこの坂道を通って熊本に向かっていきました。当時、鹿児島では珍しく大雪が降っていたと言います。戦没者は中野家のお墓のある総禅寺跡墓地入口の招魂碑に刻まれています。

戦国武将として名高い島津義弘公には、朝鮮出兵帰還後に10年過ごした居館跡の隣りが中野家の本籍地、終焉跡地に作られた加治木高校が私の母校という縁があります。明治生まれの祖父は、軍書記官として台湾に移り、母は高雄で生まれ育ちました。外に出る時はいつもチャイナドレス、小学校の授業参観にもその恰好で現れるので恥ずかしい思いをしました。兄が台湾で亡くなって独り娘となり、父が鹿児島市内から婿養子に入りましたので、中野家は母方となります。祖父は伝統的な薩摩の郷土の気風で、質実で頑固者、いつも家ではふんどし一丁で過ごし、焼酎を飲んでいました。父母が共働きでしたので、幼少の頃は祖父母と過ごす時間が多く、この祖父から薪割りや草鞋編みを教わりました。毎日の日課は、祖父の一番風呂に向けた風呂焚きでした。家では多くの鶏を飼い、毎朝卵をとり、年に1、2回特別な日には、狙いをつけた1羽を祖父と共に生きた状態から首を絞め、逆さに吊って血抜きを行い、毛をむしり、さばきました。今では考えられない生活です。私の誕生を記念して庭に植えた鹿児島特産の2本のボンタンの木は、つい最近まで毎年たくさんの実がなり、東京に送ってもらい、職場の人におすそ分けしていました。

私の原風景には、こうした薩摩の田舎で自給自足する郷土の流れをくむ気風があります。自然と小学3年から剣道を始め、主将として九州大会でベスト8に入り、水戸の全国大会にも出場し入賞しました。中学は荒れていて、剣道の指導者も不在だったので、先輩からのしごきで腰を痛め、残念ながらこの剣道は高校で断念することになりました。

さて、敗戦による台湾からの引き揚げの際、代々受け継がれた刀・羽織もの・系図等全て取り上げられたため、帖佐郷の士族ということ意外はつきりとした系譜を辿れません。鎌倉時代、京都から平氏の系譜の平山氏一族が下向し、あたり一帯を統治します。その中に平松氏がいて、治めていたところが平松という地名です。祖父は幼くして両親を亡くし、一族の平松家に預けられており、家紋も平氏の代表的な揚羽蝶なので、

ルーツはそこにあるのではとっております。義弘公は朝鮮出兵後、帖佐、加治木の間に平松でも居住しておりましたのでよっぽどの縁を感じますが、このルーツが正しければ、我が中野家一族は島津家に征服された側になります。

薩摩の気風を作り上げた教育の始まりは、「日新公いろは歌」にあります。日新公というのは島津義弘の祖父にあたり、この人がいろは歌の替え歌を作り教育に利用しました。

「いにしへの道を聞ても唱へても わか行ひにせずは 甲斐なし」

どんなに学んだり口で言っても、自分の行動に移さないと甲斐がない、という意味です。

武士である中野家も代々この教育を受けたことと思います。この薩摩伝統の教育の土台があって、幕末に登場するのが名君、島津斉彬です。斉彬の「思無邪」という書。思い邪無しという論語の言葉です。中学1年時、息子はこの「思無邪」を揮毫しました。私の座右の銘でもあります。ですから、私の行動には一切邪はありません。安心して下さい。

斉彬の下で登場してくるのが、明治維新を成し遂げた西郷隆盛と大久保利通の二人です。各々「敬天愛人」「為政清明」の書です。二人は西南戦争で袂を分かちました。私もそうですが薩摩の人間は無条件に西郷隆盛を敬愛します。しかし大久保利通も邪は無く、無私の心で私財を肥やさず、死後には借金だけが残っていたと言います。2年時は、息子にこの二人の思いを一つにするべく「敬天愛人」「為政清明」を一体化して揮毫させました。

こちら地図で郷里をお見せします。始良の隣町が蒲生で山下さんはこの士族です。海江田さんの実家は、現在の実家から徒歩数分程のところにあります。

3年時は、薩摩研究の集大成として西郷隆盛そのものに迫ります。西郷は書を残していません。西郷の教えが書かれた「南洲翁遺訓」も庄内藩がまとめたものです。唯一自身で書いて残っているのが漢詩です。魂や思いがもっとも込められているはずです。いくつか取り上げ、最終的に書にしたのはこれです。

一貫唯唯諾 従来鉄石肝 貧居生傑士 勲業頭多難  
耐雪梅花麗 経霜楓葉丹 如能識天意 豈敢自謀安  
この漢詩自体はほとんど知られていませんが、「耐雪梅花麗」は元広島カープの黒田投手の座右の銘として有名になりました。まさに薩摩の神髄に迫る言葉だと思います。息子もこの漢詩に感銘し、全紙でこれを墨書しました。親ながら、中学生が書き上げたものとしては大したものです。

これは両親の写真です。二人とも89歳になり健在で、父親はまだ車を運転しています。姉が鹿児島市内在住で城山ホテルに勤めており、何かあれば実家の世話をしています。こちらは家族で、妻は東京世田谷生まれ、現在書道教室を開いております。隣りが息子です。その隣りは加治木島津家当主の島津義秀さんです。義弘公が祀られている精矛神社でお会いして撮った写真です。ここも「西郷どん」のロケに使われました。義秀さんは大阪生まれですが母方が島津義弘公直系で、大学卒業後こちらで官司のかたわら薩摩琵琶や自顕流の普及に努めておられます。

息子は、五歳から空手をやり小学生で見事黒帯を取得し、中学からは好きな野球をしています。中高一貫の国立にある桐朋高校野球部です。こちら野球部ながら、昨年の学園祭ロゴの題字を依頼され揮毫しました。今年高校最後の夏を迎えます。秋ブロック大会は保護者も観戦不可、春ブロック大会は東京だけ中止、いまだに公式戦を応援できずにいます。昨年から中止・自粛と制限が続き、子供たちにかける言葉もありません。せめて最後の夏の大会が無事に普通に実施されることを祈るのみです。私は保護者会でビデオ制作を担っており、こちらの仕事も大変な労力を掛けている状態です。

本日お話ししたこのような歴史に根差す薩摩の気風で育った私は、お金、損得、合理より心意気で動きます。迷ったら進む、走りながら考えます。なので生傷は絶えません。広告会社を飛び出し、衛星放送の開局から黒字に転換するまで大きな傷も負いました。減資をして再建し、リーマンショックであのトヨタが大赤字の時には、5年連続で5億程の利益を上げました。この4月からまた、新しいことに走り出し修行の身です。若い頃、猛烈に働き、無茶な遊びをした因果で、今は体のがたがきて無理がきかなくなりましたが、心意気で立ち向かいます。

こうした薩摩の気風によって培われた精神は、ロータリークラブの精神にも通じます。

ご指導の程、どうぞよろしく願いいたします。